

全校の皆さん、おはようございます。そして、新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りいたします。校長先生が不在ですので、代わりに私からご挨拶いたします。

皆さんはこの年末年始休業11日間を、どのように過ごしたでしょうか。元号が平成から令和になった去年は、振り返れば様々な出来事がありました。長野県内に甚大な被害をもたらした台風19号災害から今週末で3ヶ月が経過します。年越しの様子など、報道では被災した長野の状況が取り上げられ、ご親類を含めて、お互いにいつもの年越しとはまた違う思いで新しい年を迎えた方も多くいると推察いたします。

長野県は、今回の災害を踏まえて、生命の尊さに改めて思いをいたし、最善最速で「命を守る県づくり」を推進するとともに、「より良い復興」、すなわち「災害に対して強靱な地域をつくる」という視点をもって復旧復興に取り組む」としてしています。長野市も、本格的な復興へ、市民が「勇気と希望をもてるよう、何ができるか、どう貢献できるか知恵を絞り、市民の命を守る対策を打っていく」としてしています。これは、県や市という地方行政を担うトップの思いですが、この地域に育ち、やがて未来を担っていく高校生やこの地域に暮らす私たちの課題でもあります。正解はすぐには見出せない大きな問い(テーマ)です。災害は、「私たちのこの地域をどのように創造し、安心安全な未来の故郷をどうデザインしていくか。」を問うています。社会的なことに関心を抱き、主体的に勉強・調査し、人任せでなく一人一人が自分事として捉えて、いろいろな形で対話・参画し、若い世代なりの新しい発想や創意工夫でのアイデア、発信などが必要になると感じます。

さて、本校図書館には正面のカウンターに大きい額が掲げられています。「読書人日新(書ヲ読ム人ハ日新タナリ) 徳次郎」という書です。お書きになったのは金森徳次郎氏という方です。金森徳次郎氏は官僚、政治家、憲法学者であり、戦後、第90回帝国議会では新憲法草案に関する政府側の答弁を一手に引き受け、新憲法成立に大きく貢献した人物です。昭和23年(1948年)

には国立国会図書館の初代館長となられ、昭和26年、当時画期的だった独立学校図書館の視察で本校を訪れ講演された際、「生徒らに贈る言葉として記したものである。」と『篠ノ井高校70年史』にあります。1日は24時間。努力できる量には限度があり、一気に変わることも取り戻すこともできません。日々、コツコツと努力の質をあげながら地道に前に進んで行くしかありません。今日は昨日より新しく良くなろう、明日は今日よりまた少し新しく良くなろう。そのように毎日を繰り返すことができるなら、私たちはきっと今よりもずうっと前に進むことができるはずです。「日に新たなり」この短い言葉を胸に刻み、「昨日よりは良くなった」と思えるよう、日々精一杯生きて行ければと思います。

三学期が始まります。この時期になると、「1月は行く2月は逃げる3月は去る（イチゲツイヌル、ニゲツニゲル、サンゲツサル）」という言葉を目にします。1月から3月は、年度末に向けて1年間のまとめ等を行うために、月日が足早に過ぎてしまうことを例えています。3年生にとっては登校日数も残り24日、1・2年生にとっても40日あまりです。三学期はいよいよ高校生活の、あるいは各学年の集大成としてまとめをする、とともに、新たなスタートや目標に向けて、決意し心の準備をする、とても大切な3ヶ月です。

暖冬とはいえ、冬の寒さはここから2月にかけて一層厳しさを増していきます。厳しい寒さの中での学習や部活動、生徒会活動となるので、しっかりと健康管理・交通安全をお願いします。特にインフルエンザや雪道での事故、怪我には十分に気をつけてください。皆さんが、前(未来、夢)を向いて、目的と希望を持ってこの一年間を元気に澁刺と乗り越えて行ってくれることを期待しています。

皆さんにとって良い年になることを祈り、私の挨拶を終わります。

副校長 山極 俊一郎